



しおかぜ通信

八代市立郡築小学校
校長 村嶋 博史



学校教育目標「自ら学ぶ子供」

R8,9,30 No,20

前期(評価期間)が終了しました ～前期のあゆみを振り返り、次への一步へ～

本日9月30日をもちまして、令和8年度の評価期間「前期」が終了しました。4月の始業式・入学式から半年間、子供たちは新しい環境の中で、一人一人が本当によく頑張り、心も体も大きく成長しました。そして、明日10月1日にお子様を通じて通知表をお渡します。

通知表は、お子様の半年間の努力の成果と、これからの成長へのヒントが詰まった「宝箱」のようなものです。ご家庭でご覧になる際は、ぜひ次の2つのポイントを大切にいただければ幸いです。



*「結果」だけでなく「プロセス(努力)」を褒める。

◎がいくつあった、ということ以上に、その目標に向かって「どれだけ工夫したか」「どれだけ粘り強く取り組んだか」という過程にスポットを当ててあげてください。

*担任からの「言葉(所見)」と一緒に読む

文章の中には、日々の生活の中で担任が見つけたお子様の「キラリと光る良さ」や「成長の足跡」が具体的に書かれています。ぜひお子様と一緒に読み、喜びを共有してください。

もし、思うような結果が出ずに気落ちしている様子が見られたら、「ここが伸びしろだね」「後期はここを一緒に頑張ろう」と、次の一步を応援する温かい言葉がけをお願いします。

明日より「後期」がスタートします ～子供の「素直さ」が未来を拓く～

「素直に」学ぶ 「前向きに」創る 「素直に」役割を 「前向きに」挑む



明日より、評価期間の後期が始まります。

私は、本校の子供たちの最大の強みは「スポンジのように何でも吸収する素直さ」にあると感じています。先生の言葉に耳を傾け、友達の良さを認め、新しいことに「やってみよう!」と真っ直ぐ取り組む素直さがあるからこそ、子供たちはここからさらに大きく伸びていくと確信しています。後期のさらなる成長が、今から楽しみでなりません。

この子供たちの素晴らしい「素直さ」は、一朝一夕に身につくものではありません。日々、ご家庭でお子様の話をじっくりと聴き、存在を丸ごと受け止められている保護者の皆様の温かい姿勢

があってこそ育まれるものです。「家が安心できる居心地のよい場所だからこそ、子供たちは学校で素直に前向きに挑戦できる」「批判することなくよりよい人間関係を築くことができる」と思っています。そんなご家庭の教育に、改めて感謝します。今後とも、お子様の頑張りを見つけては認め、ほめ、励ます存在であり続けてください。

そして、その素直さをさらに伸ばし、大きな成長へとつなげていくことが私たち教職員の使命です。学校では、子供たちの「やってみよう」「分かりたい」「できるようになりたい」という素直な意欲を大いに引き出し、一人一人の挑戦や変化を認め、ほめ、励ます指導を徹底し、子供たちが「素直に前向きに頑張ってた」「認められて嬉しい」と実感できる場面を、日々の授業や生活の中で一つでも多く創り出していきます。

運動会のスローガン発表及び応援団長の決意表明、「めざせ体力王」の表彰

9月29日(火)、児童集会があり、体育委員会が、運動会のスローガン「一致団結し、絆を深め、最高の思い出になる運動会」を発表しました。このスローガンのもと、今後本格化する運動会の練習や本番に精一杯取り組み、心身共に大きく成長してほしいと期待しています。

引き続き、応援団長2人の紹介と決意表明がありました。2人の力強い言葉に一気に機運が醸成しました。

また、年度当初から体力向上策として取り組んでいる「めざせ体力王」(学校の普段の生活において体力向上・健康増進を目指した取組)で、「シルバーランク」に到達(500ポイント超え)した子供2人(共に5年生)の表彰を行いました。2人とも毎日遠い道のりを歩いて登下校し、昼休み時間は外で遊び、掃除では雑巾がけに励むなど、粘り強く取り組んでいます。

